

い。(3)、実習点とのバイシリアル相関係数は、二校についてそれぞれ、 0.00 と 0.32 である。

次に M T A I (Minnesota Teacher's Attitude Inventories——教師の態度調査用紙)の翻訳をし、その原案を作った。M T A I は教師の態度を民主的な態度と権威的な態度とに分けようと試みたものである。進歩的教育においては、教師は民主的な態度を要求され、民主的な態度で子どもの考えを生かすことのできるような教師が望ましいとされる。この為この尺度は民主的方法による進歩的教育をよいと考える学校においてのみ使用しうる、とことわってある。方法は二百八十五名の女子学生に施行し、百五十項目の項目分析をし、十%以下の危険率で有意でないもの三十項目を除き、百二十項目を残した。この M T A I の結果は、

(1)、ある程度の学校差はであるが、一般教養課程の学生と保育専攻の学生との間の差は認められない。(2)、保育専攻の学生についてみると、一年生より二年生の方が平均点が高く、その学年差の値は 1.96 で五%以下の危険率で有意である。(3)、実習点とのバイシリアル相関係数は二校についてそれぞれ、 0.10 と 0.34 である。この時に用いた実習点は、各学校の先生方の評価によってつけられたものである。

保育態度調査用紙と M T A I との相互関連をみてみると、総合的に言えば、低いが相関はある。そして、保育専攻の学生についての方がこの二つの質問紙の相関は高く現われている。

次に参考までに、西本脩氏の保育者の社会的評価の尺度とそれぞれの質問紙との相関を求めてみた。M T A I の場合はきわめて低いが、相関はある。保育態度調査用紙は、相関は認められない。

結論は、(1)、保育専攻の学生については、保育態度調査用紙と M

T A I とは相互に関連があつて、保育者の態度の個人差を弁別することができるといえる。

(2)、両質問紙とも、学年の高い方が得点が高く、保育態度はある程度教育によって向上させることができる。

ただし、これらの質問紙による態度調査が、どれだけ、実際の保育態度と一致するものであるか、については、なお今後の検討を要するものである。
(大会発表論文抄録 82—83頁)

保育者の求める生活と教養

宝仙学園短期大学 岡 田 正 章

東京都内所在の公私立幼稚園・保育所に勤務している保育者三十七名に質問紙を配布、生活の実態とそれに対する見解及び必要としている教養について記入を求めた。その結果から考えられる問題を二、三指摘すれば、

まず第一に保育者の約六〇%は結婚後もできるだけ長く自分の仕事を続けようと思っている。しかし、結婚後家庭と職場を両立させることについては、時間的な余裕のないことを理由として多くの人々は半ば絶望的である。毎日午後六時以降になつてやつと勤務の終る人が全体の約二〇%もいることは早速に改善すべき一つの問題である。このためには、施設内では勤務時間の合理化を、対社会的には保育者の勤務時間に対する正しい認識による協力を一層促進する必要がある。

次に、現在の職場にずっと勤務したいと考えている人は約四五%

で、外にいい施設があるわけでもないからやむを得ず現在の職場に留まっているとすると人約二二%、すぐにでも転職したいと考えている人約八%に較べその数は少なくともないが、職場への安定度が高いとはいえない。その理由はさまざまであるが、その一つに職場内での助言活動の低調さがあげられる。

保育者の多くは自分の仕事に対して大きな不安をいだいている。過半数の保育者は職場内での積極的な助言を非常に強く期待している。にもかかわらず、女性心理が手伝ってか相互に何らの話し合いをせずしかも他の人から何か思われてはいないだろうかと神経をいらだたせている。これに対しては、施設規模が小さく職員数の少ないことを最もよい条件とするよう、相互の人間関係の改善に努めることが必要である。このため、職員会を有効な手段とすることが考えられる。現在、約四〇%の人々が職員会は職員の見解を十分尊重する場となっていないと受取っている。その民主的な運営の確立こそ

助言活動を含むすべてのまづい人間関係の壁を破る早道であろう。

最後に、保育者の求める教養についてみれば、経験年数の長くなるに従って一般教養に対する必要感が強くなり、無資格者で経験年数の少ない人程教職教養に対する必要感が大きい。保育についての専門的な知識技術は経験の積み重ねによって習得されると考えられているところに、教職諸科学は如何に答えねばならないか。

また一般教養の中、社会科学に対する関心は、幼稚園よりも保育所の保育者において極めて高い。保育所の幼児を保育しようとするとき、幼児の生活そのものを守ることを避け得ない保育所の保育者が、生活の在り方を問う社会科学に強い関心を払うことは必然であろう。しかし、幼稚園の保育者といえども、幼児の生活が正しく守られているかを考え、そのために必要な社会実践に当る叡智をもつことは、今日誠に切実である。両者の見解の交流こそこのことに近づく一歩であろう。

(大会発表論文抄録74—75頁)

X 管理運営に関する研究

私立幼稚園教育の限界

神田寺幼稚園 友松 あきみち
富貴島幼稚園 由 田 浩

現場保育者の研究発表が保育学会でも逐年増加しているが、その発表内容は一般に保育技術面での調査研究に重きがおかれており、保育運営の基盤として経営管理の現状とか保育思想に及ぼす諸種の社会事情に対する見解、児童観を根底とする制度論等について論及されているものは少ない。今回表題の発表を試みたのは次の理由からである。

一、わが国幼稚園教育の過半を占める私幼稚園について現在当面